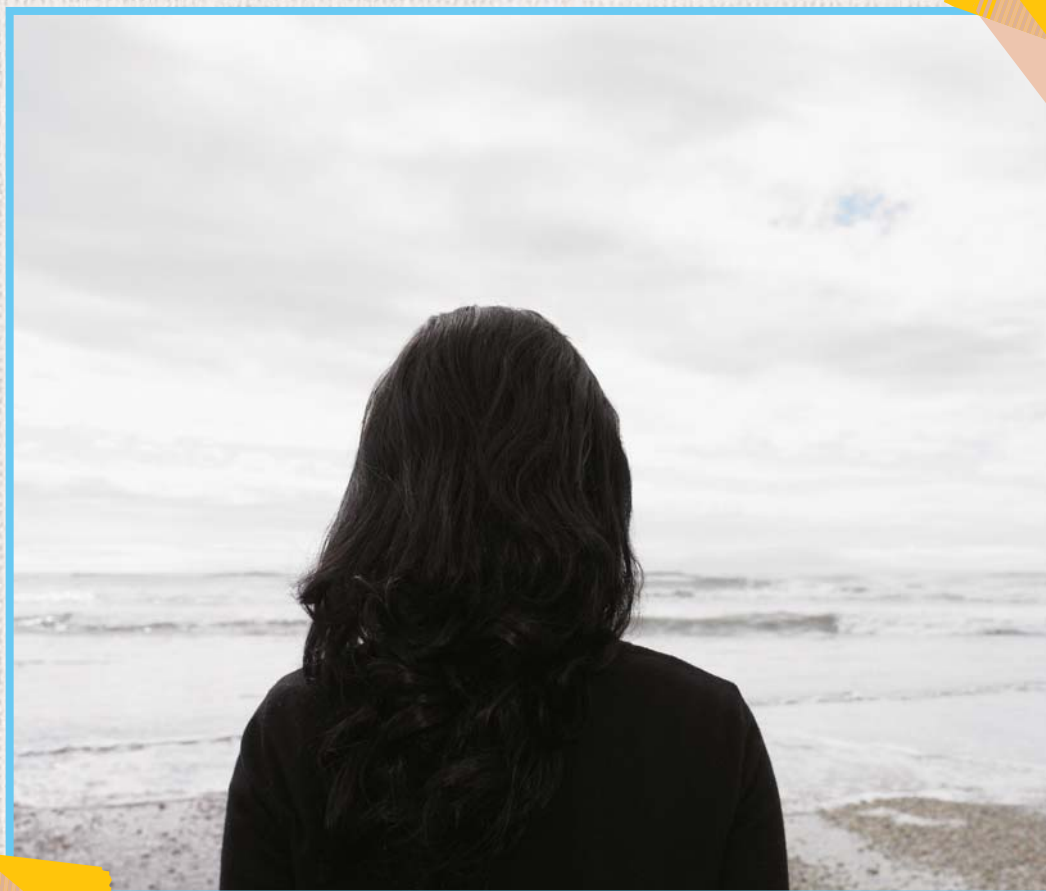


聞こえない世界を、多くの人に
～ゆうかちゃんの願い～

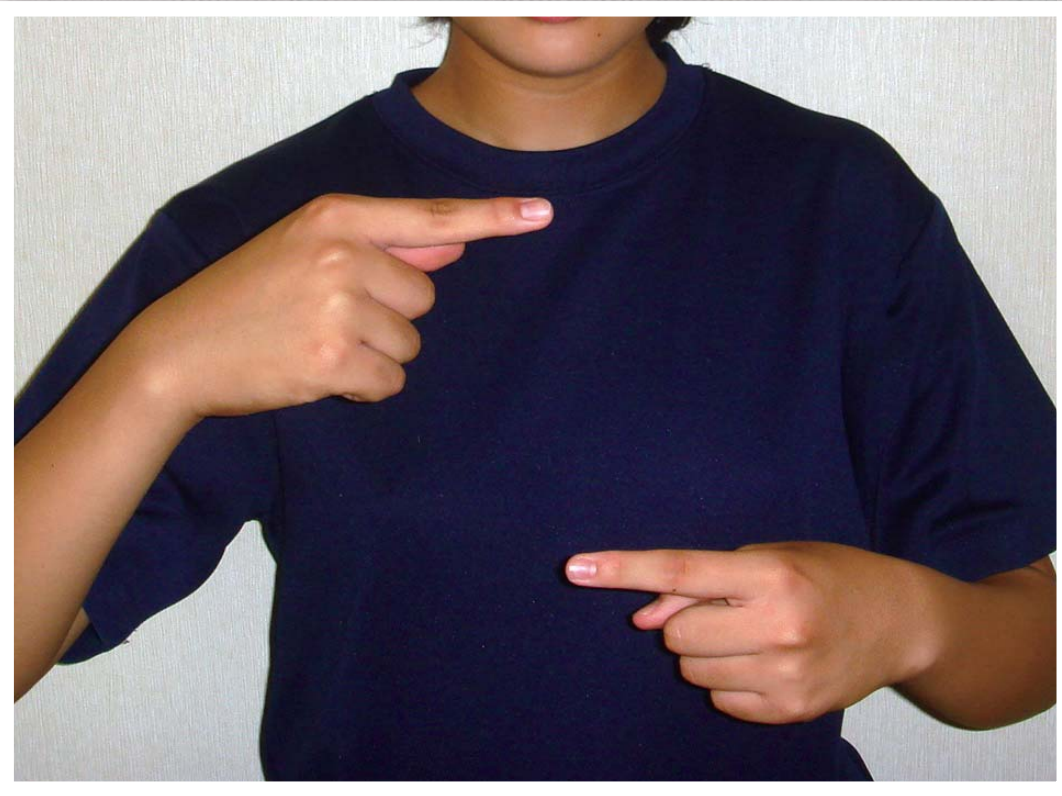




**ゆうかちゃんには
4つ上のお姉ちゃんがあります。
お姉ちゃんは耳が聞こえません。
でもゆうかちゃんが生まれた時からなので、
聞こえないことは“特別なこと”とは
思っていません。**

小学校に入った時、
授業や全校集会などで先生がお姉ちゃんに
手話通訳をしていることを知りました。
お姉ちゃんは耳が聞こえないので、
当たり前のことだと思っていました。
でもその様子を見た人たちが
手話の真似をしてふざけて遊んでいました。
ゆうかちゃんにとって手話は
お姉ちゃんと話す大切な“言葉”です。
お姉ちゃんや手話のことも何も知らずに
からかっているように見えて、
とても悲しい気持ちになりました。





**耳が聞こえる人の多くは、
聞こえない世界のことをよく分からないので、
疑問に思うことがたくさんあります。
お姉ちゃんがいなかったら、
きっとゆうかちゃんも
こう思うことはなかったでしょう。
「聞こえない世界を、
少しでも多くの人に知ってもらいたい」。
それがゆうかちゃんの願いです。
手話はゆうかちゃんにとっても
当たり前“言葉”なのです。**

二人はヒップホップダンスが大好き。
ゆうかちゃんが
小学2年生の時に一緒に始めました。
お姉ちゃんはとても上手で、
知らない人が見たら耳が聞こえないことが
分からないくらいリズムカルで、
楽しそうに踊ります。





音が聞こえないのになぜ上手に踊れるのかー。

ゆうかちゃんは知っています。

それは頭の中で

数を数えながら踊っているから。

先生の動きも良く見て

何度も何度も練習して、

家でも頑張って練習しています。

「いつかお姉ちゃんみたいに

上手に踊れるようになりたい」

お姉ちゃんは

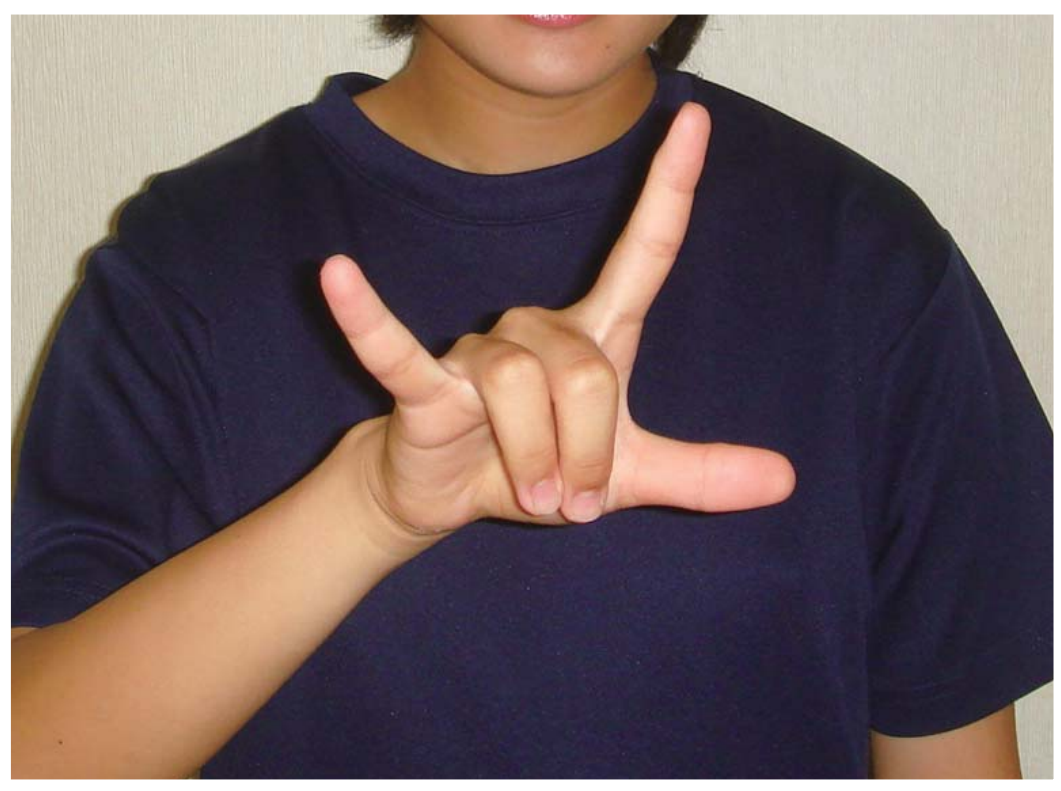
ゆうかちゃんの憧れでもあります。

時々、ゆうかちゃんは少し反省します。
お姉ちゃんが聞こえないことを忘れて、
お父さんやお母さんといつ声だけで
会話をしてしまうからです。
お姉ちゃんも「何を話しているの？」と
尋ねてくることがあります。
そういう時、ゆうかちゃんは考えます。
「周りの人が何を話しているのが分からなかったら、
みんなが笑っているのに
なんで笑っているのが分からなかったら、
私もきっと不安でさびしい気持ちになる」。





時々けんがもします。
でもすぐに仲直り。
一緒に遊んだり、いろんなことを教わったり、
心配してくれたり、時々しかってくれたり。
お姉ちゃんは耳が聞こえないだけ。
あとは他の人と変わりません。



耳が聞こえる人の多くは、
聞こえない世界のことをよく分からないので、
疑問に思うことがたくさんあります。
お姉ちゃんがいなかったら、
きっとゆうかちゃんも
こう思うことはなかったでしょう。

「聞こえない世界を、
少しでも多くの人に知ってもらいたい」。

それがゆうかちゃんの願いです。



「聴覚・言語障がい」について

聴覚障がいには、まったく聞こえない「ろうあ」と聞こえにくい「難聴」があります。言語障がいには、言葉の理解や適切な表現が困難な「言語機能の障がい」と、言葉の発声だけが困難な「音声機能の障がい」があります。聴覚障がいと言語障がいが重複することもあります。

★こんな配慮がうれしい！

- ◇適切なコミュニケーション方法を**確認**
(筆談、口話、手話、代用発声)
- ◇音声以外の情報伝達方法を使う
(ファクス、掲示板など)
- ◇聞き取りにくい場合は、分かったふりをせず**内容を確認**

あとがき

生まれた時にはお姉ちゃんは耳が聞こえなかったの
で、手話を使うのも特別なこととは思っていない。私
は耳が聞こえないことを想像してみた。でも音のない
世界を想像するのはなかなか難しい。そして耳栓をして
テレビも見てみた。人との会話にも入ってみた。もちろ
ん内容はさっぱり分からなかった。私が耳栓をしていた

のはわずかな時間で、外せば音がある世界になる。ゆ
うかちゃんの思いを聞き、聞こえる人、聞こえない人
が一緒にいて当然で、当たり前コミュニケーション
ができる環境づくりの必要性を感じた。(石)